

## 比べることのない自分

柴間 麻梨絵

私が仏教を学ぶきっかけとなったのは、お寺の人と結婚したからです。私自身はサラリーマン家庭に育ちました。新屋で、お仏壇もなかったのも、お寺さんに会う機会は祖父母の法事の席くらいでした。

結婚するまでは、お寺と関わることはなくて、お寺というのは観光地にあるもので、お坊さんも一体何をしているのか何にも知りませんでした。そんな私でしたが、せっかくお寺さんと結婚したので、仏教のことを学んでみたい、と思いました。一年間学校に行かせてもらって多くのことを学びました。今はサラリーマンをしながら、勉強を続けています。

お寺や仏教に関わることは何もない、そんな人生を生れてから30年くらいは過ごしてきました。そして仏法に触れ、生活をするようになって数年が経ちました。

自分の中に何か変化はあるだろうか？と自分自身に問いかけました。

先ほどもお話しましたが、私はサラリーマンをしています。以前までは、私は「ほかの人より仕事ができなくては」と思っていました。他の人からどう見られているか、「あの人は仕事ができるね。」というまわりの人からの評価が気になっていたんだと思います。人と比べて「人より仕事ができるか」「人よりもうまくやれているか」そんなことを自分の物差しとして評価をしていたように思います。

けれど、私は今、そういった「他者との比較」の中に自分がいるのではなく、自分自身が納得できるように生きていきたい、他者と比較してどうこうではなく、自分の行いや行動に責任をもって仕事をしていきたい、そういうふうに思っています。

私たちは阿弥陀様から「あなたを救いたい」と「願われて」います。「全てのものが平等に救われるように願いをかけられている」。私はそれを「他でもない、あなたが、あなたのままでいられるよう願われている」ということだと思っています。

まわりの人からの評価によって、つまり、「私は仕事のできるいい人だから」救われるのではなく、阿弥陀様はどんな私であっても「救いたい」と願ってくださっている。

だから、他者と比較したり、自分が自分のことを認められない、ということなく、無理をせず自分と向き合い、受け入れ、背伸びをせずに安心して仕事や生活と向かい合っていける。そんなふうに思っています。日常生活の中にある仏法を大切に過ごしていきたいと思っています。とはいえ、まだまだ勉強中の身です。少しつまづくことがあると、「なんで自分は評価してもらえないんだろう」「自分は悪くない、あの人が悪い」とわが身を振り返ることなく発言したりすることもあります。その度に、こんな自分でも救いたいと阿弥陀様が願ってくださることを心にとどめ、思い起こしたりしています。そして自分自身ともしっかりと向き合い前に進んでいきたいと思っています。